

「絶景の丘」を創る

国営常陸海浜公園事務所 調査設計課 清宮 栄

1. 「みはらしの丘」になるまで

現在、花々が美しく咲くこの公園がある場所は、かつては日本軍水戸東飛行場があり、終戦後は米軍により射爆撃場として使われておりました。地元住民を中心とした十数年にわたる返還運動により、昭和48年3月に日本に返還されました。その後、「平和の象徴として公園を整備したい」という地元の強い思いにより、『国営ひたち海浜公園』が誕生することになりました。無数の爆弾や銃弾が撃ち込まれた標的の跡は、今では花いっぱい「みはらしの丘」に生まれ変わりました。

2. 建設発生土の利用

みはらしの丘は、米軍の水戸射爆撃場のメインの的があった場所に人工的に整備された高さが58mの丘です。使用した残土は大型トラック20万台分、約25年かかって完成しました。

3. シーケンス構成

シーケンスはシーケンスデザインとも呼ばれ、「移動することで変化する景色」、「徐々に変わっていくデザイン」のことです。西口から歩いて行くとだんだんと絶景が広がるように構成されています。

①入口から400m



②みはらしの丘



入口から400m程度進んだ箇所の案内看板に従って曲がると木々のトンネルとなり、みはらしの丘を隠している。さらに進んで行くと、視界の下の方にみはらしの丘が徐々に見えてくる。期待感を膨らませつつ、木々のトンネルを抜けるとみはらしの丘が一面に広がります。

4. 「絶景の丘」を創出する「植栽技術」や「植物管理」

4. 1 「植栽技術」

◇ネモフィラ “インシグニスブルー” について (ムラサキ科 ネモフィラ属)

ネモフィラの植栽密度については関東地方でも播種の間隔は 25cm ~ 30cm が標準とされているが、当園では東北地方に近い気候環境にあることと、播種の適期である 10 月下旬に前倒しができないため播種幅をあえて 20cm 間隔に狭めて実施している。

これにより、年末の冷え込みが早く、株の生育が遅れた場合にも翌春には株が地表をしっかりと覆い開花期には丘一面が水色の景観になる。

◇コキア “オータムビューティー” について (ヒユ科 ホウキギ属)

使用するコキアの品種は、当公園と種苗メーカーで共同開発した “オータムビューティー” を使用している。本品種は、国営公園でのみ使用されている。

本品種の特徴は、通常楕円形のコキアを毎年円形に近づけ、紅葉もより鮮明に発色するように現在も改良 (品種選抜) を継続している。

草姿を円形に近づける一番の目的は、秋の花修景演出を展開するにあたって避けては通れない台風による倒伏被害を回避することである。

また、コキアの紅葉の時期に併せてコスモスも満開を迎えるよう、四季咲き性と短日開花性品種の配合割合と播種日の設定で毎年調整をおこない、丘全面のコキアとコスモスの “マリアージュ” を目指し挑戦を続けている。

4. 2 「植物管理」

ネモフィラ、コキアで丘全面を覆うにあたっては、基本的な作業ではあるが雑草の除去作業が特に重要な役割を担っている。播種の前に不可欠な耕耘作業を行うことで、前年に種を落としていた全ての雑草の発芽条件が先行して整うため、丘全面の播種が終了した頃には、既に雑草の繁茂が始まってくる。

重要なのは、この時点でいかにネモフィラの初期生育を阻害する雑草をいち早く取り除くかにある。ここで一旦取り除いてしまえば、ネモフィラが優先的に光と風と水を与えられることで茎や葉を広げ、栄養成長が促進され、他の雑草の発生や生長を抑制させることができる。雑草の処理速度を速めるため、播種の際には予め 20 cm 間隔で特性のレーキで丘全面に直線状でマーキングを行い、この線に沿って筋播きによる播種を実施している。つまり直線状に同じ間隔で播種をすることで、除草の際に雑草とネモフィラの葉の選別が不要となる。また、作業員の視認性も向上することで花畑の雑草の上に足を踏み入れてもネモフィラを傷めずに除草作業や雑草の運搬も可能にするなどの工夫をしている。

今後の課題としては、みはらしの丘で多くの経験を積んできたプロフェッショナル集団の高齢化が進んでおり、特に播種量をミリ単位でおこなう播種作業などの技術の継承が急務とされている。